



令和5年に完成した畜産フィールド科学センター 新牛舎・搾乳舎

国立大学法人北海道国立大学機構

# 帯広畜産大学の取り組み

令和5年8月 発行



帯広畜産大学長  
長澤 秀行

令和5年4月1日から、マスクの着用は個人の判断に委ねられ、通常とは異なる生活を余儀なくされた、新型コロナウイルス感染症による影響も落ち着きを見せ、帯広畜産大学においても、以前の活気ある姿を少しずつ取り戻しているところです。

昨年は、制限がある中でも「オープンキャンパス」、「寮祭」や「畜大祭」、「ちくだいホームカミングデー」などのイベントを3年ぶりに開催することができました。これらのイベントでは、参加者と学生・教職員が実際に顔を合わせて共に楽しむ様子が見られ、大学構内は大いに賑わいました。また、教育の面では、10月から2年半ぶりに完全対面授業を再開させることができました。

しかしながら、今日の社会状況は、決して平穏とは言えません。他の感染症の脅威や、農業・酪農に関しては様々な背景から危機的な状況も見られます。「生産から消費まで」一貫した環境が揃う十勝に位置する本学のミッションは「知の創造と実践によって実学の学風を発展させ、『食を支え、暮らしを守る』人材の育成を通じて、地域及び国際社会に貢献すること」です。今後も北海道国立大学機構の一員として、異分野融合の取り組みを三大学で協力して推進するとともに、社会の要請に応えることのできる農学系「グローバル人材」を育成します。





